



これからが旬の「赤い本」のお話

各学年フリースペースの本棚に教学社の「大学赤本シリーズ」通称「赤本」が置いてある。創刊は1954年というから、今から70年前にはあったことになる。当初はわずか3銘柄から始まったものが現在、554銘柄を刊行しそれに携わった解説者は1,000人を超えるという。

皆さんはこの「赤本」の最初に書かれている「はしがき」が毎年異なるのをご存じだろうか。私はこの「はしがき」を毎年楽しみにしている。その中でも特に印象に残ったものをここでは紹介するので、自分の手元に「赤本」があれば手に取って読んで欲しい。なぜなら、「はしがき」には発刊当時の世相が反映されていたり、受験生に対する著者の熱いメッセージが込められていたりしているからだ。

以下2017年版の「赤本」の「はしがき」である。



大学入試の季節が近づいてきた。寒い雪の日の朝、電車の中で受験生と思しき若者が単語帳を開いているのを見るにつけ、もうかれこれ数十年前になるが、かつて自分自身が受験生だったときの姿を重ねてしまう。

高校3年生の冬、受験に失敗した。後で振り返ると、漫然と塾や予備校に通い、基礎もできていないのにレベルの高い参考書に手を出し、やった気になっていた。実際はたいして勉強していないのに、根拠のない自信と慢心があって、案の定それはもうくも打ち砕かれた。大学で何をやりたいのかさえはつきりしないまま、よく考えずに志望校を決めていた。

浪人して改めて自分を見つめ直し、多くの本を読んだ。1年間の計画をしつかりと自分で組み立てたいと考え、自宅浪人の道を選んだが、思い返せば、悶々ともがき苦しみ、天井を眺めてはのたうち回るような日々であった。自分を見失い、自堕落な毎日をすごすこともあったが、試行錯誤の中でなんとか目標を見定め、少しずつ自分のペースをつかめるようになっていった。

受験当日のことはほとんど覚えていないが、手応えはあったものの、自信があるというわけではなかった。合格発表の日もすぐに見に行く勇気がなく、行ったときには既に掲示板のまわりは閑散としていたが、張り出されていた小さな紙に自分の受験番号を見つけたとき、しばらくその場に立ちつくして離れることができなかった。大学受験はあくまでも人生における通過点にすぎず、それ自体が目的ではないのだが、受験を通して身につ

たこと、学んだことはもちろん、様々な努力と試行錯誤を重ねた経験は、将来なんらかの形で人生の支えとなるかもしれない。雪の日に受験生を見かけるたびに、もう一度やり直せと言われてもできないような濃密な日々を懐かしく思い出すのである。

最後になったが、家族や友人など、支えてくれる周囲の人たちへの感謝を忘れず、受験本番で持てる力を存分に発揮できるよう健康管理にも十分に注意し、見事合格の栄冠を勝ち取られることを願ってやまない。

編者しるす

1,000人もの解説者がいるのだから、それぞれが色々な人生を歩んできたことは、冷静に考えれば分かること。それでも赤本の編者が、基礎も出来ずに高い参考書に手を出し受験に失敗、その後の浪人生活の悶々とした不安や苦しみを、「はしがき」に書いていたことには、驚きと共感を覚えた。

ここからは特に3年生へ向けての意味合いが多くなる。受験生は時間が無くなればなくなるほど、目の前のことだけに注意が行きがちだが、過去の問題に触れるだけが「赤本」の役目ではない。知っている人もいるとは思いますが、「入試状況(志願者数・競争率など)」や受験年度ごとの「合格者最低点・平均点」。それから各学部の合格者による「合格体験記」と、同じく「受験のアドバイス」・「科目別攻略アドバイス」と、受験生への有効な情報が満載だ。過去問に手をつけるだけで、これらの情報に目を通さないのは勿体ない。

因みに最新の「赤本」鹿児島大学文系・理系の「受験アドバイス」から一部紹介。【時間を上手く使うためにしていた工夫を教えてください】やはり大敵なのはスマートフォンやゲーム機です！自分で使用を控えることはなかなか簡単ではありません。そこで、私は画面の色を白黒にし、見ていて疲れる画面、みたくない画面を物理的に作りました。そうすることで時間を無駄にすることなく、より勉強に集中することができました。…文系

【「赤本」の有効的な使い方を教えてください】赤本は13年分を解きました。難易度や傾向はそれほど変わらなかったもので、時間が許すだけ、同じ大学の問題にたくさん触れました。実際に受験した年度にも似たような問題が出ていたので、やっておいて損はないと思います。特に、直近3、4年分は繰り返し解いて鹿児島大学の形式に慣れることで、初めての問題でも徐々に解き終えるまでの時間が減っていきました。…理系





コインで「アタリ」を掴むには

2年

木々の葉も少しずつ色づき始め、秋の訪れを感じる季節となりましたね。過ごしやすい気候の中、学習や探究活動、模擬試験の対策等、様々なことに対して熱心に取り組んでいることでしょう。

秋は、学校生活のリズムが戻ってくる一方で、少しずつ気持ちが緩みやすい時期でもあります。後期前半が始まった頃には「勉強を頑張ろう!」、「部活動に力を入れよう!」、「将来のことを真剣に考えよう!」と抱いていた目標や決意も、日々の忙しさの中でいつの間にか薄れてしまっていないでしょうか。

そんなときこそ、素晴らしい自分の未来を思い描いてほしいと思います。数年後、皆さんはどのような自分になっていたいですか。どのような場所で学び、どのようなことに挑戦し、どのような人生を歩んでいたいですか。まだ具体的な目標が決まっていなくても構いません。自分の可能性を日々の授業の中や、何気ない日常の中で再確認し、未来の自分に期待を膨らませてみてください。そしてその思い描いた未来に一步でも近づくために、今の自分に何ができるのかを考えてみましょう。

人生は選択の連続です。選択の積み重ね、つまり昨日の自分自身の選択が今日の自分を形づくるものです。私は、人生は「アタリ」と「ハズレ」のあるコイン投げのようなものだと考えています。人生には、自分の思いどおりに物事が進むこともあれば、どれだけ努力しても望んだ結果が得られないこともあります。しかし、その結果をただ運の良し悪しとして受け止めるのではなく、その経験から何を学び、次にどう生かすかによって、その後の人生は大きく変わっていくのではないのでしょうか。

もちろん、努力を重ねたからといって必ずしも成功するとは限りません。それでも、失敗した原因を考え、自分に足りなかったものに気づき、次に向けて工夫を重ねることで、成功につながる可能性を高めていくことはできます。一度の失敗で諦めてしまうのか、それとも失敗を成長の糧として再び挑戦するのか。その選択の積み重ねが、未来の自分を形づくっていくのだと思います。

失敗は、決して無駄なものではありません。うまくいかなかった経験も、そこから学び、次の一步につなげることができれば、自分自身を成長させる大切な財産になります。たとえ今は思うような結果が得られなくても、挑戦を続けることで、以前はつかめなかった「コインのアタリ」をつかめる日が来るかもしれません。だからこそ目の前の結果だけで自分の可能性を決めつけず、ひとつひとつの経験を大切にしながら前に進み続けてほしいと思います。

皆さんの人生で大切なのは、目の前の結果だけに一喜一憂するのではなく、自分の未来をよりよいものにするために、今何ができるのかを考え、行動し続けることです。昨日よりも少し知識を増やすこと、苦手なことから逃げずに挑戦すること、うまくいかなかった経験を振り返ること。そうした日々の小さな積み重ねが、少しずつ皆さんの可能性を広げていきます。失敗を恐れて挑戦することを諦めるのではなく、失敗から学び、次の一步につなげてほしいと思います。

皆さんの未来は、まだ決まっているわけではありません。今はまだ、自分がどのような道を歩んでいくのか、はっきりと見えていない人もいるでしょう。それでも、焦る必要はありません。日々の学習や探究活動、何気ない日常の中で自分が心から面白いと思えること、夢中になれることを探してみてください。そして、それを見つけたときには、ぜひひたむきに追究してみてください。目の前の一步を大切にしながら努力を重ねていけば、今はまだ想像もできない景色が見えてくるはずです。数年後の皆さんが、今の自分を振り返ったとき、「あのとき、一步踏み出してよかった」と思えるような日々を過ごしてくれることを願っています。

目先の楽しさに囚われず、日々努力を積み重ねて、自分の思い描く未来へ一步一步進んでいこう。



『目先を追うな、耐えることなくして勝利はないんだ』